a 学校教育目標	自らをきりひろく たくましい児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校
----------	---------------------	----------------------	---

評価計画					自己評価				改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	○ドリルや各種学力テストを通して個の課題を把握し、R-PDCA(調査→計画・実践・評価・改善)に基づく学習指導を組織的に行う。 ○「児童生徒のICT活用の系統表」に基づき、児童が自らICTの特長を理解して意図的に活用できる授業を計画・実行する。 ○児童が時間・場所・学習内容により自分で選びICT機器を自由に活用できる機会を保障する。	・NRTについては、各学年の設定した目標偏差値を達成した児童の割合	90%	65%				・NRTでは、どの教科でも問題文の中から必要な情報を取り出し、選択した情報を再構成して表現したりすることに課題が見られた。基礎的な力は定着しつつあるが、活用問題の正答率が低かった。 ・学期末テストでは、算数科と理科において目標値を達成できた。国語科では、書かれている内容を大まかに捉えたり、大事な言葉を抜き出して要約したりすることに課題が見られた。 ・デジタル教科書の活用については、日常的に行うことができた。思考したことをICTを活用して表現する学習も進められている。 ・児童は、「写真を撮る」「調べ学習」「文でまとめる」「漢字の練習」「タイピング」「学びをまとめる」「ミライシードをする」等で活用することができている。	・学力補充シートをもとに組織的な取組を実施する。(授業づくり、アシストシートによる復習、木原タイムでドリルパークの実施、ウェブプリントの計画的な活用、学期初めのまとめのテスト実施) ・単元テスト前のプレテストで学力到達状況を十分に把握したうえで、苦手な単元についてドリルパークで復習することを徹底し、学力の定着を図る。 ・ジャムボードが活用できなくなることを視野に入れ、スライドやそれに代わるソフトを活用できるようにICT支援員との連携を図りながら取組を進める。 ・ICT活用の系統表をもとに、各学年の実態に応じてスキルを身に付けさせていく。 ・紙とデジタルの選択の場を設け、それぞれのよさを考えることができるよう単元構成を工夫する。	○			・文の構成において筆者が何を訴えたいのかを読み取る指導をより充実させてほしい。 ・自然・環境・文化等のを絞って指導を行い、児童の感受性・想像力を豊かにしてほしい。
			・各教科(国語科・算数科・理科)学期末まとめのテストで85%以上を到達した児童の割合	90%	86%	86.5%	B							
			・デジタル教科書の活用や思考ツール、スライド等を活用させながらの授業の実働	100%	100%	104%	A							
豊かな学力的育成	(2)表現力並びに主体性・協働性を育てる。	○R80(まとめ・振り返り)の目的・意味を学習者と共有し、行事や授業時間ごとに実施する。 ・2～6年生は、書くことを中心にして実施する。 ・1年生については、1学期は状況を把握しながら、話すことからの振り返りや内容選択で思いを表出する振り返りを実施する。	・児童アンケートで「ICT活用のよさ」や「どう活用できているか」「自分たちが中心となってICTを活用して学習を進められているか」など肯定的に回答した児童の割合	90%	95%	105%	A	・表現力に関わる6項目のうち、3項目において肯定的評価が100%であった。相手に伝えるように工夫して話すことについては、自信がもてない児童が若干名いた。 ・日常的に縦割りで協力を常時活動等も影響があると考えられる。	・今後も、「話す」「聞く」「読む」「書く」「伝える」「まとめる」「発表する」等、少人数を生かしての表現活動を授業毎に取り入れ、アウトプットの学習を常に保障していく。 ・児童同士が参観し合う「学びのステップ交流会」を学期ごとに実施し、学び方を学ぶ学習環境を継続する。	○			・国語科の指導に課題を残しているようです。日常的に自分の考えを書いてまとめる指導を丁寧に進めてほしい。	
			・児童アンケートで表現力関連アンケートにおける肯定的評価の割合	90%	94%	104%	A							
			・児童アンケートで振り返り関連アンケートにおける肯定的評価の割合	90%	74%	82%	B	・「振り返りを書くことが好きです。」「授業のまとめを自分の言葉で書いています。」「においては67%である。しかし、「振り返りを書くことで自分の学びをうまく伝えることができます。」「においては89%である。	・R80では、使用する接続詞を発達段階に応じて固定したり数を絞ったりしながら取り組ませ、論理的な思考力を高めたい。また、R80の交流を通して、なかなか書けない児童も友達の表現から学び、自分の表現に取り入れられるようにしていく。					
豊かな心の育成	(1)自ら行動し、やりぬく意欲と自信を育てる。	○マラソン、なわとび、暗唱、読書の自己の目標を設定し、目標に向かって挑戦する「木原チャレンジ」を継続する。 ○話し合い活動や委員会活動、縦割り掃除等、目標をもって自主的に取り組み、関わり合い、協力し合う場を設定し、自己の変容を振り返らせる。	・児童アンケートで「木原チャレンジ」の目標達成、「目標を決めてやり切る」への肯定的評価	100%	97.2%	97.2%	B	・児童全員が「木原チャレンジ」の目標達成について肯定的に回答した。チャレンジタイムでなわとびの記録に毎日取り組むことができた。暗唱については、自分で作った詩を暗唱する等手立てを工夫することで、ほとんどの児童が目標を達成することができた。一方で、読書については、図書整備のため本を手取る機会が減ったことで、達成できなかった児童が数名いた。	・読書朝会で学年に合った本を紹介したり、教室に国語科の教材と関連した図書を置いたりする等、本に親しみをもちたせることができるように工夫していく。 ・担任が木原チャレンジの進捗を確認し、肯定的な声かけを行う等、木原チャレンジが途切れることのないように取組をすすめていく。	○			・自分で目標を設定し、チャレンジを繰り返す粘り強い児童の育成をお願いします。	
			○地域の素材を生かした特色ある授業づくりを充実させる。また、地域の人や文化(木原太鼓踊り)、行事(とんど祭り)等とつながる「ふれあい活動」を推進させ、地域との交流やお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える場を設定する。	100%	97.2%	97.2%	B	・児童全員が、木原町の好きなところについて、「美しい自然」や「あたたかい地域の方々」等に触れて回答することができた。また、地域との交流では「体育参観日」や「とんど祭り」、「授業の中での地域のかかわり」を思い出深いと回答した。	・地域や地域行事のよさに目を向けにくい児童に対しては、教師が積極的に「今までの地域の行事は何があったかな?」「～なところがすてきだね。」などの声かけを通して、気づきを増やすことができるようにする。	○				
健やかな体の育成	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○「健康生活チャレンジウィーク」や「歯みがき週間」を実施する。歯みがきの方法や意義について指導し、児童が主体的に歯みがきの方法を工夫することによって、歯みがき習慣の定着を図る。	・歯みがきの習慣を身につけた児童の割合(平日朝・夜)	100%	98.2%	98.2%	B	・児童全員が、保健朝会の内容をふまえて、主体的に目標を設定し、歯みがきカレンダーに取り組みすることができた。また、登校後や下校時に個別に声かけを行うことで、ほとんどの児童が平日の朝・夜に毎日歯みがきをすることができた。朝の歯みがきを忘れてしまう児童も歯みがきカレンダーの取組に主体的に取り組むことができた。	・歯みがきカレンダーの取組を継続して行い、歯みがき習慣の定着を図っていく。身体計測時に保健指導を行い、歯や、歯みがきの大切さについて計画的に指導していく。また、家庭と連携し、組織的に取組をすすめていく。 ・美化・保健委員会による保健朝会を行った。学級担任及び養護教諭が個に応じた指導を行ったりしていく。	○			児童に基礎体力がつくような指導をお願いします。	
			(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	・児童アンケートで「運動すること」「体育科の授業」への肯定的評価	100%	100%	100%	A	・児童全員が「運動をすること」「体育の授業」について肯定的に回答することができた。また、チャレンジタイムでは、児童が目標に向かって取り組む姿が見られた。休憩時間の「みんなあそび」の実施によって運動に親しみをもちることができた。	・体育科の授業では、柔軟運動や筋力トレーニングを取り入れ体力向上に努める。また、児童が運動に親しむことができる環境づくりを行っていく。そのためにボール運動の際には、全員が楽しく取り組むためのルールを考え、ゲームを行うなどの工夫を継続していく。児童会主体で「みんなあそび」を実施したり、外遊びするように声かけを行ったりして、運動に親しみをもちさせる。	○			・年度末にはすべての児童が「木原チャレンジ」を完成させるように期待しています。
信頼される学校の形成	(1)保護者・地域の学校への理解を深める。	○学校・学級だよりの内容を工夫し、計画的に発行して(学校だより月1回、学級だより月2回以上)、地域・保護者に発信する。 ○保護者・地域の方と連携・協働する「ふるさと学習」を充実させる。	・地域、保護者アンケートでの肯定的評価	90%	100%	111%	A	・学校だより、学級だよりを定期的に発行することができた。また、行事の案内や下校時刻等のすぐで配信し、保護者や地域との連携をとることができた。 ・地域の方をゲストティーチャーに迎え、夏野菜やわけぎの育て方を指導していただいた。また、大島島の生物調査を行い、地域にある自然を大切にしようとする意識を育てることができた。	・今後も継続してよりの発行をする。また、児童が学習の内容を地域に紹介しようという意欲を持っているため、お便りやICT等を効果的に活用し、発行、配信していく取り組みを進める。 ・地域や保護者と連携をとりながらコミュニケーションスクールの準備を進めていく。	○			・もっと地域へ要望を提起してください。対応します。 ・木原小学校の魅力を広報活動でしっかり伝えてください。	
			(2)安心・安全な学校づくりを推進する。(不祥事ゼロ)	○「木原小セーフティガード」の活用や不祥事防止研修の工夫により、安心・安全に対する職員の意識を継続・強化する。 ○業務改善を推進するとともに、目標の共有と協働により、職場の同僚性と教師のウェルビーイングを高める。	・「木原小セーフティガード」目標値(110%)達成(直近)職員	100%	100%	111%	A	・毎月不祥事防止研修を行い、各担当教職員が研修内容を工夫し、同僚性を高め、自分ごととして捉えることができた。 ・授業時間の適正管理、スケジュール管理を進め、時間外業務時間の削減に努めた。	・今後もセーフティガードを活用し、不祥事の未然防止に努める。 ・引き続き、授業時数管理、スケジュール管理を進める。勤務時間、休憩時間を意識した働き方ができるように、意識づけしていく。	○		

【J:自己評価 評価】
A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成)<100
C:60≧(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。